

### (3) 北 関 東



北関東地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(   は上方に変更、   は下方に変更)

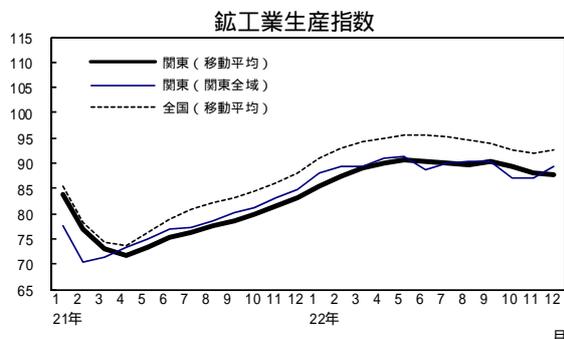
#### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成22年11月)	今回(平成23年2月)	
景況判断	足踏み状態	持ち直しの動き	
鉱工業生産	おおむね横ばい	持ち直しの動き	
住宅	大幅に増加	増加	

#### 1. 生産及び企業動向

##### (1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。(関東全域)

輸送機械は、普通乗用車及び小型乗用車で海外向けが好調であるものの、エコカー補助金終了による需要減により、減少している。化学は、フェノールや化粧品などで、減少している。一般機械は、海外受注の減少により、フラットパネル・ディスプレイ製造装置及び半導体製造装置などで、減少している。電気機械は、家電エコポイント制度見直しの需要減により、セパレート型エアコンなどで、減少している。



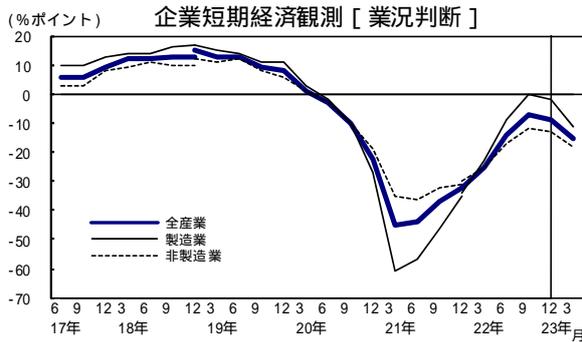
(備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。  
2. 全国及び関東の大線は後方3か月移動平均。

##### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

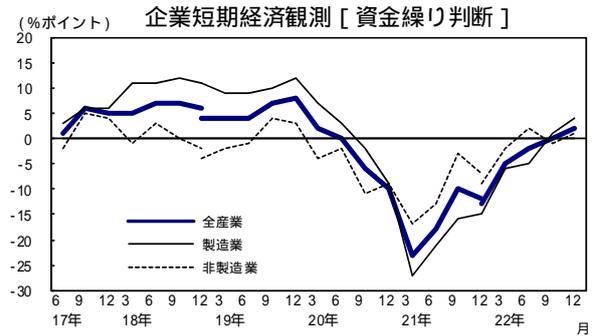
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
輸送機械	15.2	6.9	12.1	12.8	5.2
化学	13.4	0.1			
一般機械	13.2	5.8	2.0	1.4	1.6
電気機械	7.8	4.3	2.3	1.2	0.0
食料品・たばこ	7.1	0.1			
鉱工業	100.0	0.1	2.7	1.7	4.6

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 10~12月期は速報値。化学、食料品・たばこは、速報値では公表されていない。

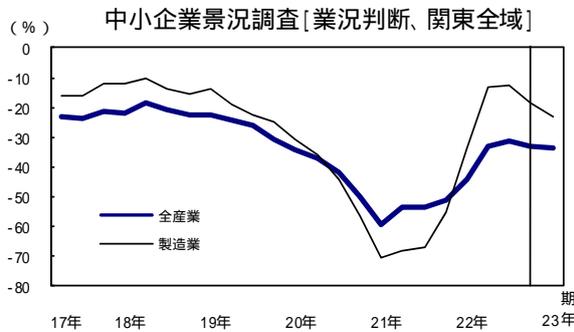
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超に転じている。  
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年3月は予測。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。  
関東全域(新潟県を含む)。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。  
日本銀行前橋支店管内。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(11月)[企業動向関連(現状)]

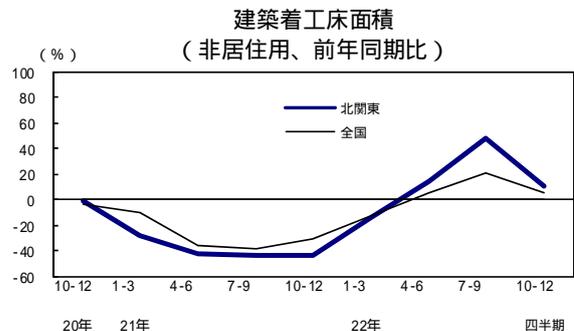
「自動車向けの仕事に関しては一服感があるが、引続きショベルカーを中心とした建設機械関連の仕事が好調であり、全体としては変わらない状況である(一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 22年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績	22年度計画
全産業	3.8	24.8 ( 0.8 )
製造業	35.8	35.3 ( 0.2 )
非製造業	58.9	58.5 ( 2.7 )

(備考)( )は前回(9月)調査比修正率。  
調査対象は日本銀行前橋支店管内。



(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

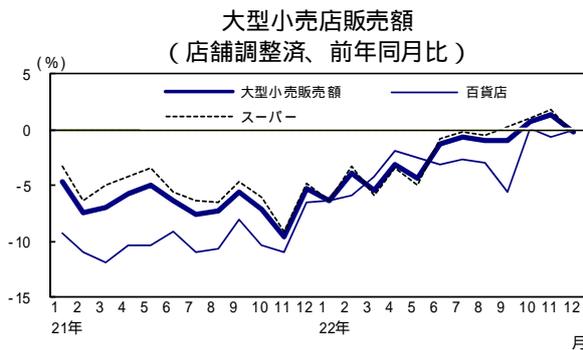
大型小売店販売額

百貨店は、10月は、上旬に秋物衣料が動き、下旬の冷え込みにより防寒衣料が好調なことから、前年並みとなった。11月は、クリスマスケーキやおせちの予約が好調だったものの、前年より日曜日が少ないなど日並びが悪かったことから、前年をわずかに下回った。12月は、中旬まで気温が高めに推移したことから冬物衣料が低調であったものの、月後半に防寒衣料が好調となったことから、前年並みとなった。

スーパーは、衣料品が低調だったものの、家電エコポイント制度見直し前の駆け込み需要が好調であったことから、前年をわずかに上回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「クリアランスセールが始まり、入店客数増を期待していたが、昨年を下回る結果となっている。しかし、婦人服、服飾雑貨を中心とした婦人ファッション関連商材は客単価の上昇が見られ、堅調に推移している(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



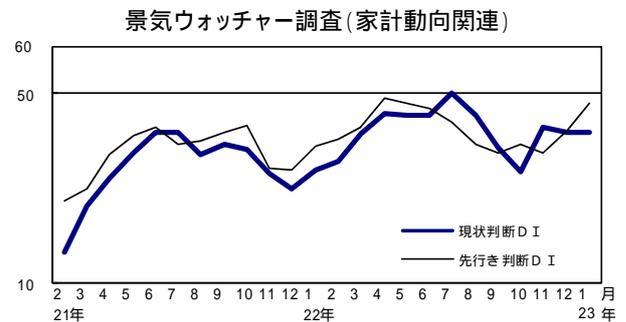
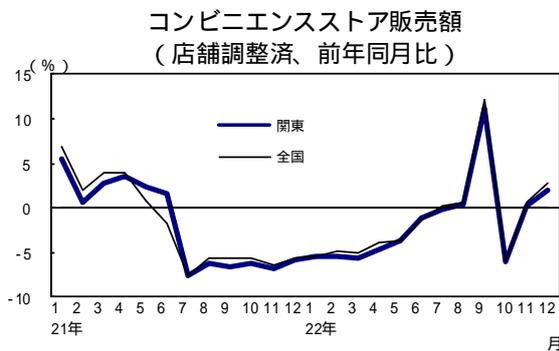
(前年同期比、%)

	22年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	5.3	2.9	0.8	0.6
百貨店	5.4	2.4	3.7	0.2
スーパー	5.3	3.1	0.1	0.8
乗用車	26.2	22.5	15.4	28.2
景気ウォッチャー	37.1	45.5	44.7	39.5

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。22年10-12月期は速報値。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。

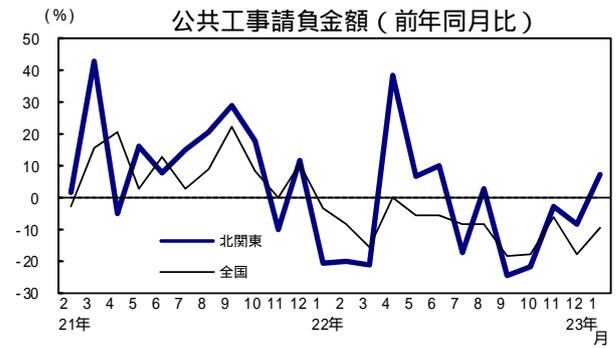
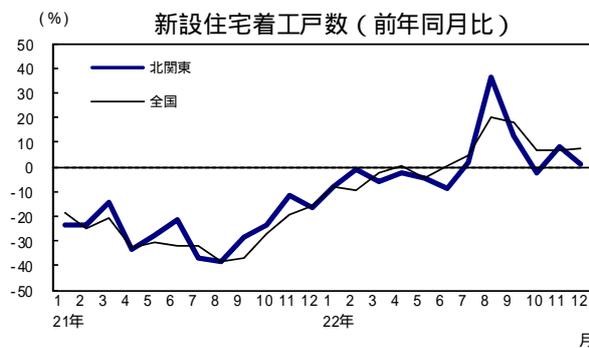
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は増加している。

持家が前年を上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は22年度累計で見ると前年度を下回っている。

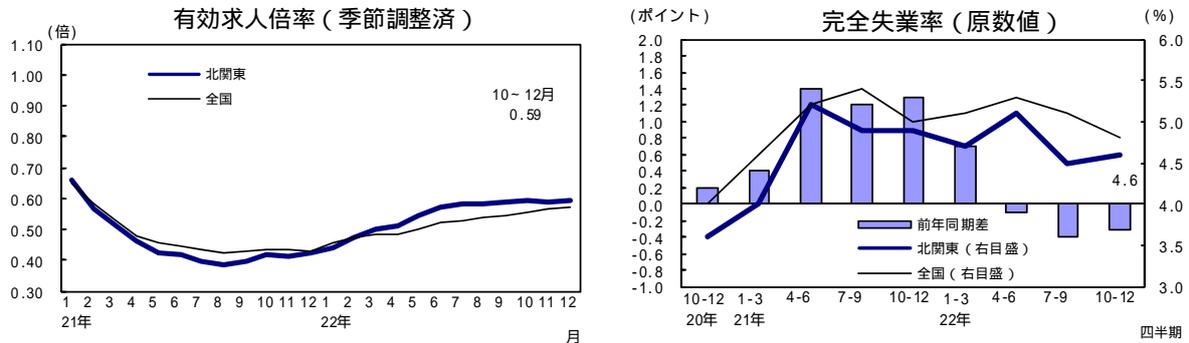


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (12月) [雇用関連 (現状)]

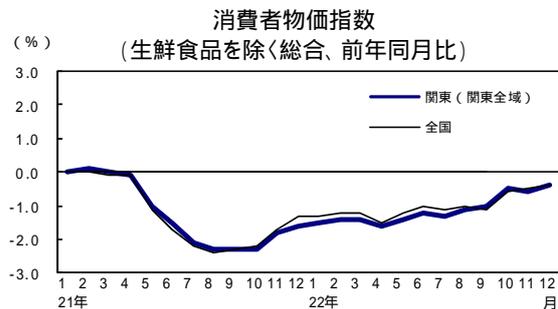
「求人进行引する製造業において、受注は増加しているものの単価が厳しく、収益不安等から、新たな社員採用に全くつながっていない (民間職業紹介機関)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	22年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	23年1月
倒産件数	208	176	180	170	71
(前年比)	24.6	23.8	1.1	21.3	24.6
負債総額	690	414	1,011	535	217
(前年比)	36.8	64.2	7.3	7.5	5.4



景気ウォッチャー調査 [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状> (11月)

- ・エコポイント申請条件変更の報道以降、省エネ薄型テレビが前年6倍の数量で急激に動き、テレビ関連が販売構成比の50%となっている (家電量販店)

<先行き> (1月)

- ・春の観光シーズンが始まり、当地周辺が舞台となる連続テレビ小説の放送開始があるので、来客数増加に多少の期待をしている (観光型ホテル)

